

平成31（2019）年度 熊本県立人吉高等学校 定時制 シラバス

教科	芸術	科目	書道 I	単位数	2	開講 学年	1
----	----	----	------	-----	---	----------	---

学習概要 および 学習目標	・中学校国語科書写の学習を基礎としながら、書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てる。 ・書に親しむ活動を通して、感性を高め、書写能力の向上を図り、自己を主体的に表現する力を身につける。 ・書の美しさを感じとる鑑賞の基礎的な能力を伸ばしていくとともに、書の伝統と文化についての理解を深める。
---------------------	---

期間	単元（学習内容）	学習の到達目標	自己評価欄
初年度～ 1学期末	I 書へのいざない(オリエンテーション) ①. 書写から書道へ ②. 姿勢・執筆法、基本点画と用筆 ③中学書写の確認 調和よく書いてみよう ＜作品鑑賞＞ ④. 用具・用材 筆・墨・硯・紙 ⑤表現の幅を広げよう 好きな漢字一字 ＜作品鑑賞＞ II 漢字の書の世界(楷書の学習) ①・書体の遍歴・書の古典 ②楷書の古典に学ぼう ・唐の四大家（書と人） ＜作品鑑賞＞ ■生活の中の書①はがき・手紙の書式	I 中学校までの書写の学習を振り返る。 ①書写と書道の共通性と相違を理解し、書の世界を知ることができた。 ②姿勢や執筆法の基本を習得した。 ③漢字と仮名の調和と用筆の基本について理解し、書くことができた。 ④・用具・用材の種類や性能を理解できた。 ・用具・用材の製造工程や産地を知ることができた ⑤用筆や運筆、用具・用材による表現の違いを学び、好きな漢字一字で表現することができた。 II 中国の文字と書の伝統と文化について理解する。 ①・漢字の書体の遍歴について理解できた。 ・古典の意義や拓本について知ることができた。 ②楷書古典の臨書学習により、各古典の表現の違いを理解し、その特徴を踏まえた用筆法・運筆法で書き、鑑賞することができた。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
1学期期末～ 2学期中間 考査	④篆書に親しもう・泰山刻石 （表現の窓）篆刻・印を彫る ＜作品鑑賞＞ ③行書の古典に学ぼう ＜作品鑑賞＞ ◎（表現の窓）文化祭の作品制作 ＜作品鑑賞＞	④・身の回りにある篆書に気づき、親しむことができた。 ・姓名印を刻し、臨書作品に押印することができた。 ③行書古典の臨書学習により、各古典の表現法の違いを理解し、その特徴を時代と人物を通して鑑賞することができた。 ◎・楷書、行書の特徴を理解し、用具・用材や形式、構成などの表現方法を工夫し、作品を制作した。 ・さまざまな作品を鑑賞し、感じたことを話し合い、自らの鑑賞力が深まった。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
2学期中間～ 期末考査	III 仮名の書の学習 ①仮名の書の学習をはじめよう ②仮名の書の古典に学ぼう ＜作品鑑賞＞平安時代の古筆の鑑賞 （表現の窓）作品制作 ＜作品鑑賞＞ ■生活の中の書②金封・住所録	III ①仮名の成立と変遷、種類について理解することができた ②・平安期仮名の独特の流動美や構成を学び、書独特の筆使いに慣れ、基本用筆を習得した。 ・自らの思考や感動を表現できる語句を選び、表現方法を工夫し、作品を制作した。 ・さまざまな作品を鑑賞し、感じたことを話し合い、自らの鑑賞力が深まった。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
2学期期末～ 3学期 学年末考査	IV 漢字仮名交じりの書の世界 ①漢字仮名交じりの書の学習をはじめよう ■生活の中の書③年賀状 ◎書き初め（今年の目標） ＜作品鑑賞＞ ②自分らしい表現を求めて ＜作品鑑賞＞名筆の鑑賞 ◎創作しよう	IV ①自らの思考や感動を表現できる語句を選び、表現方法を工夫し、作品を制作した。 ◎自らの思考や感動を表現できる語句を選び、表現方法を工夫し、書き初め作品を制作した。 ・さまざまな作品を鑑賞し、感じたことを話し合い、自らの鑑賞力が深まった。 ②漢字仮名交じりの書を鑑賞し、感じたことを話し合い、自らの鑑賞力が深まった。 ◎創作の準備と手順を知り、創作することができた。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
3学期学年末 考査～年度末	■生活の中の書 ・身の回りの書	■身の回りにある手書きの漢字仮名交じりの書に注目し、印象や特徴についてそれぞれ話し合い、自分の暮らしに書を取り入れる工夫ができた。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D

使用教材 参考図書	書 I 教育図書
学習方法	グループワーク
評価方法	①作品（6割）～目標に沿った表現ができているかを評価する。 ②ワークシート（2割）～鑑賞の記述内容や感想などで評価する。 ③出席状況（関心・意欲・態度含む）・その他提出物等（2割）～出席・遅刻・準備・発表・片付け等で評価する